

4. 研究方法

研究対象地域で発行されている観光パンフレットや水辺環境に関する資料、自治体や観光協会のホームページ内にある情報から、地域の水辺環境を活かした観光振興の実態を把握する。

研究対象地域として選定した 98 地域の自治体、観光協会に資料請求を行った。情報発信という視点から、自治体や観光協会の対応や資料の存在状況を把握するため、資料請求は観光客として資料請求を行い、対象地域 98 地域の自治体と観光協会に資料を請求した。

本研究は地域の水辺環境を活かした観光振興の実態を把握することを目的とするため、資料が無い地域については分析を行わないこととする。資料を得ることが出来た 69 地域 (表 1 の塗りつぶし) について資料内に記載されている観光に関する内容に着目し、分析を行った。

4.1 資料の分類

自治体、及び観光協会から請求した資料をもとに水辺環境を活かした観光情報発信について分類を行う。

「水辺環境の種類」「水辺に関する観光・保全資料の内容」「観光コース・ガイドの有無と内容」「水辺のアピールポイント」についてその内容を抽出・分類した。

表 2 分類項目

地域のみちづくりの中心となっている水辺環境		
水辺の種類	河川	人工的に造られたのではなく、自然発生的に形成された水路
	湧水	わき水。本件研究では、地域でその水辺環境の名前が湧水や、湧水群とされているものを湧水とする
	地下水	地層・岩石の隙間や割れ目に存在し、重力の作用によって流動する水。本件研究では、地域でその水辺環境の説明が地下水とされているものを地下水とする。
	用水	人工的に造られた飲料・灌漑・洗濯・防火などの用に供するための川、引き水。 [水路]、「疏水」、「堰」、「堤」を用水として扱う
	ダム	発電・利水・治水などの目的で水をためるために、河川・渓谷などを横切って築いた工作物とその付帯構造物
	湖	水災を防ぐため、1個もしくは数箇所の村落を堤防で囲み、水防共同体を形成したもの。 田を陸地で囲まれ、直接海と連絡のない、静止した水塊。
水辺に関する資料	資料、パンフレットから把握する事項	
	パンフレット	地域の水辺環境が主なパンフレット、資料の数 水辺を中心とした観光や施設、保全に関するパンフレットの有無 例:〇〇水選り ~水ものがたり 等
	保全資料	水辺環境の保全に関する資料の有無 例:〇〇保全活動記録 等
	マップ	地域の水辺環境が主の観光マップの有無 例:〇〇水選り ~水観光ルート 等
観光コース・ガイド	水辺(一部)	地域の水辺環境を1つ以上含めた観光コースの有無 例:水と歴史探訪コース ○〇の町並み→△△寺→××湧水→□□資料館
	水辺(中心)	地域の水辺環境が主な観光ポイントとなっている観光コースの有無 主に観光コースの名称から抽出 例:〇〇水選りコース ~水の郷ルート
	ガイド	水辺を観光ガイドコースのポイントとしているガイドツアーの有無
アピール	水辺環境のアピールポイント	
	歴史	①歴史:水辺に関する故事来歴や、言い伝え等を紹介しているもの
	生活	②自然:カヌーやキャンプ等のレジャー活動を紹介しているもの
	自然	③生活:地域の人々の生活の水の場や様子を紹介しているもの
	保全	④保全:水辺の保全活動や、その成果を紹介しているもの
都市空間	⑤都市空間:水辺周辺の水辺に関する公園や、施設等の整備、取り組みを紹介しているもの	

4.1.1 資料内容

全資料数は 632 部であった。その中で、地域全体の観光パンフレットが 261 部、水辺環境が主のパンフレットが 121 部、水辺の保全・管理に関する資料が 63 部であった。

また、資料の内容として、水辺を 1 つ以上巡る観光コースが設定されている地域が 27 地域であり、水辺環境を中心として巡る観光コースが設定されている地域が 19 地域であった。

ボランティアガイドが主催のツアー等で、ガイドが水辺環境をツアーのポイントとして巡るガイドツアーが設定されている地域が 34 地域であった。

4.2 分析方法

水辺環境に関する観光パンフレットや保全管理資料、自治体のホームページから得られたデータを以下の 2 つの分析手法を用いて類型化を試みた。

4.2.1 数量化理論Ⅲ類

分類項目の結果を元として、数量化Ⅲ類を行い、各サンプルの類似性やポジショニングを明らかにする。

4.2.2 クラスタ分析

数量化Ⅲ類によって得られたサンプルスコアを用いて、階層別クラスタ法 (ウォード法) によって分類を行った。

5. 分析結果

5.1 サンプルのポジショニング

数量化理論Ⅲ類により、資料分析を行った研究対象地 69 地域のサンプルのポジショニングを得ることが出来た。(図 1)

カテゴリーの分布より、1 軸を「自然—都市空間軸」、2 軸を「部分的水辺環境—広域水辺環境 軸」と解釈した。

表 3 数量化Ⅲ類 固有値表

軸No.	固有値	寄与率	累積%	相関係数
1	0.3311	13.7%	13.7%	0.5754
2	0.2885	11.9%	25.5%	0.5371
3	0.2752	11.3%	36.9%	0.5246

5.2 クラスタ分析結果

数量化理論Ⅲ類によって得られた各地域の1軸・2軸のポジショニングデータを元に、クラスタ分析によって、各地域を9グループに分類した。(表4)

5.2.1 類型化の考察

【クラスター1 (歴史的水辺資源型)】

主要な水辺環境は河川と湧水であり、その水辺環境の歴史や故事来歴を観光におけるアピールポイントとしている。水辺環境に関する観光用のパンフレットが作られ、ボランティアガイドによる水辺環境を巡るガイドツアーもほとんどの地域で行われている。また、観光パンフレットの他に用水保全に関する資料も比較的多い。

【クラスター2 (伝統的生活水保全型)】

主要な水辺環境は湧水であり、湧水の歴史や故事来歴、地域の人々の生活の様子、保全活動をアピールポイントとしている。湧水に関するパンフレットもほとんどの地域に存在し、ボランティアガイドによるツアーも行われている。湧水は、現在でも地域住民の生活水として欠かせないものとなっている。

表4 クラスタ別サンプル一覧

No.	地域	河川	湧水	地下水	用水	ダム	橋中	湖	パンフレット	保全資料	マップ	水辺中心	ガイド	歴史	生活	自然	保水空間
1	盛岡市	○	○	○					○		○	○	○				
4	岩出山町 吉川市			○					○		○	○	○				○
6	湯沢市		○						○	○	○	○	○				
19	国分寺市								○	○	○	○	○				
20	南都留郡忍野村		○						○	○	○	○	○				
21	黒部市	○	○						○	○	○	○	○				
23	入善町	○	○						○	○	○	○	○				
24	富山市	○	○	○					○	○	○	○	○				
27	白山市	○	○						○	○	○	○	○				
41	近江八幡市		○	○					○	○	○	○	○				○
43	高山市(マキノ町)	○	○						○	○	○	○	○				○
51	東広島市		○	○					○	○	○	○	○				
62	島原市		○	○					○	○	○	○	○				
1	美郷町六郷		○						○	○	○	○	○				
4	遊佐町		○						○	○	○	○	○				
6	君津市		○						○	○	○	○	○				
19	大野市		○						○	○	○	○	○				
20	松本市		○						○	○	○	○	○				
21	駿東郡清水町		○						○	○	○	○	○				
23	米原市		○						○	○	○	○	○				
24	彦根市		○						○	○	○	○	○				
27	西浜市		○						○	○	○	○	○				
41	熊本市		○						○	○	○	○	○				
43	南阿蘇村		○						○	○	○	○	○				
51	高島町		○						○	○	○	○	○				
3	仙台市役所着村区			○					○	○	○	○	○				
12	甘味町			○					○	○	○	○	○				
16	磐歌市(佐原区)	○							○	○	○	○	○				
28	金沢市								○	○	○	○	○				
37	郡上市(旧八幡町)	○	○	○					○	○	○	○	○				
37	飛騨市吉川町		○						○	○	○	○	○				
45	上野町		○						○	○	○	○	○				
52	山口市		○						○	○	○	○	○				
57	柳川市			○					○	○	○	○	○				
60	筑紫郡那珂川町			○					○	○	○	○	○				
8	八幡町(現湯田市の一部)		○						○	○	○	○	○				
10	那須烏山市	○							○	○	○	○	○				
14	北川辺町(加須市の一部)								○	○	○	○	○				
18	日野市		○	○					○	○	○	○	○				
26	小松市	○	○						○	○	○	○	○				
33	飯田市		○						○	○	○	○	○				
47	定江町(現米子市の一部)		○						○	○	○	○	○				
56	新居浜市		○						○	○	○	○	○				
66	山形町	○	○						○	○	○	○	○				
69	竹田市		○	○					○	○	○	○	○				
13	寄屋町	○							○	○	○	○	○				
30	若狭町			○					○	○	○	○	○				
32	木曾町	○							○	○	○	○	○				
35	長野市		○						○	○	○	○	○				
48	津和野町	○	○						○	○	○	○	○				
53	碓氷市		○						○	○	○	○	○				
59	朝倉市	○	○						○	○	○	○	○				
67	菊池郡大津町、菊陽町		○						○	○	○	○	○				
68	日田市	○							○	○	○	○	○				
11	財橋市	○		○					○	○	○	○	○				
36	海津町(現海津市の一部)				○				○	○	○	○	○				
40	長島町(現長島市の一部)	○							○	○	○	○	○				
50	広島市								○	○	○	○	○				
54	徳島市	○							○	○	○	○	○				
61	佐賀市	○		○					○	○	○	○	○				
15	秩父市			○					○	○	○	○	○				
31	小浜市			○					○	○	○	○	○				
46	西宮市			○					○	○	○	○	○				
58	福岡市			○					○	○	○	○	○				
3	土浦市	○		○					○	○	○	○	○				
22	砺波市	○							○	○	○	○	○				
49	加茂町(現津山市の一部)	○							○	○	○	○	○				
2	七ヶ宿町			○					○	○	○	○	○				
25	清川市		○						○	○	○	○	○				

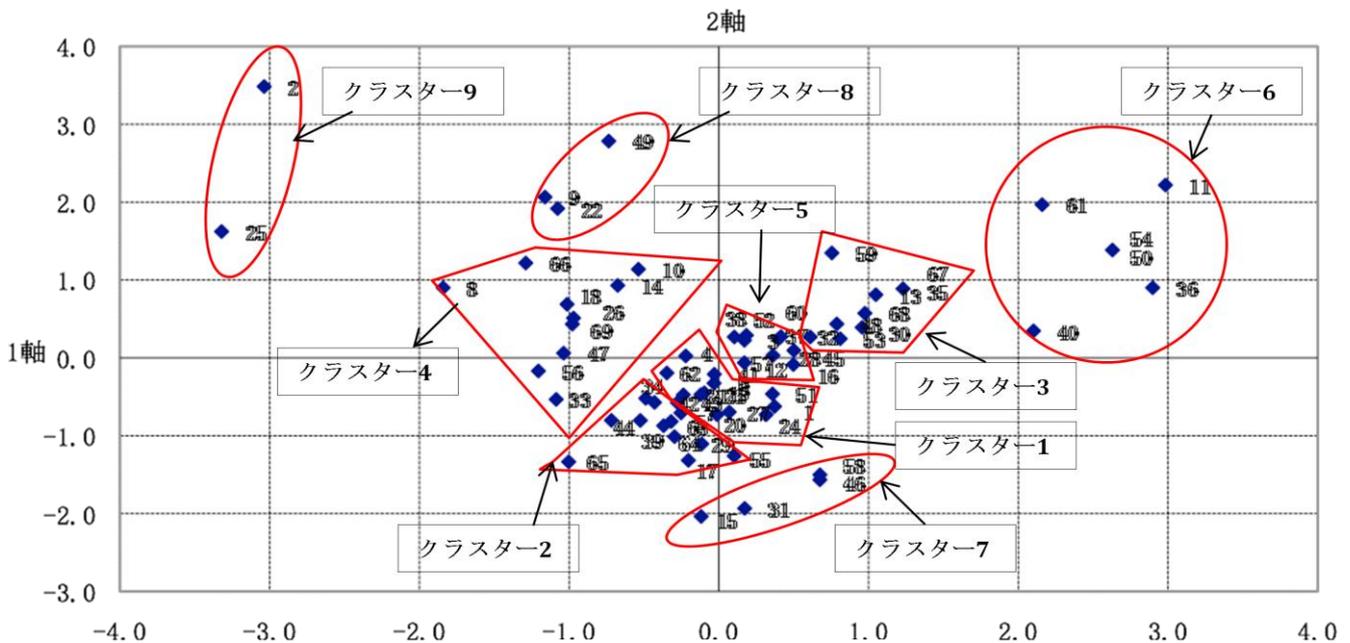


図1 サンプルスコア点グラフ

【クラスター3 (伝統的景観水辺調和型)】

主要な水辺環境は用水であり、その水辺環境の歴史をアピールポイントとしている。観光パンフレットの他に、用水の保全に関する資料が比較的多い。また、歴史の記述内容をみると、水辺だけでなく水辺周辺の町並み景観の記述が多いのが特徴である。

【クラスター4 (潜在的水辺資源型)】

湧水が主要な水辺環境である。地域の水辺環境としては溪流を紹介するものが多い。伝統的な水辺環境として、市街地や集落の中にある湧水を紹介しているものもあるが、写真や、位置情報のみ記載されていて、情報量が少ない。市街地には人々との生活と密接な水辺環境が存在するものの、観光の資源としての注目はされず、潜在的なものになっていると考えられる。

【クラスター5 (歴史的河川・用水型)】

河川、用水が地域の水辺の中心となっており、それらの歴史や、周辺の歴史的景観をアピールポイントとしているが、主に地域の歴史的なまち並みや、建築物等の資源が観光の中心となっており、水辺環境に関する観光マップや観光コースが設定されていない地域が多くみられる。

【クラスター6 (都市空間整備型)】

水辺環境は河川で、河川を利用した親水空間の整備の公園や、施設、散歩道等の都市における親水空間の整備をアピールしている。また、地域の水辺環境の水害や、防災の歴史についてアピールしている。扇状地上や複数の河川の合流部に位置するものがほとんどであり、水害から地域を守るための水辺環境周辺の整備事業が盛んであることから、防災がアピールポイントになっていると考えられる。

【クラスター7 (部分的地下水利用型)】

主な水辺環境は地下水で、地域の水飲み場や、酒造に用いられる。水辺を活かした観光マップやコースは確認できなかった。

【クラスター8 (自然的水辺観光型 I)】

地域の主要な水辺環境は河川であり、河川を利用したレジャー活動をアピールポイントとしている。水辺環境に関するマップや、ガイドツアーは確認できなかった。

【クラスター9 (自然的水辺観光型 II)】

湧水や、用水が地域の主要な水辺環境となっている。

自然環境を活かしたレジャー活動や施設が地域の水辺環境のアピールポイントとしている。

6.まとめ

現在の日本各地に存在する伝統的な水辺環境を活かしたまちづくり先進地における観光情報発信の内容を分類した結果、「Ⅰ.歴史的な水資源型」が全体の19%、「Ⅱ.伝統的な生活水保全型」が17%、「Ⅲ.伝統的な景観水辺調和型」が15%、「Ⅳ.潜在的水辺資源型」が15%、「Ⅴ.伝統的な河川・用水型」が13%であり、合わせて全体の8割を占めるこの5つが伝統的な水辺環境を活かす観光の主要なパターンである。特にⅠ.Ⅱ.Ⅲでは水辺を中心とした観光コースの設定やガイドツアーの実施など、積極的な取り組みがされていた。

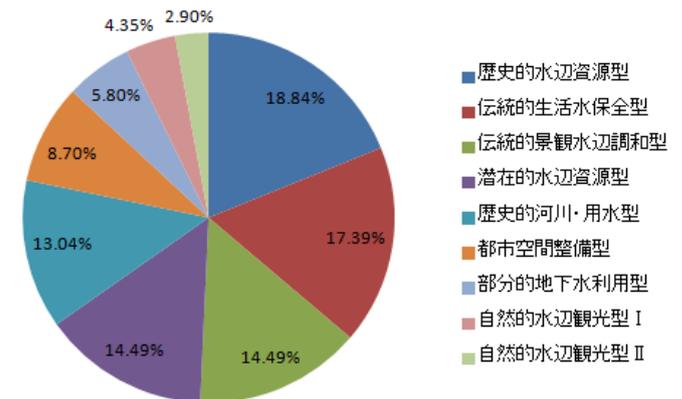


図2 クラスタ構成比

7.今後の課題

本研究は、伝統的な水辺環境の観光活用の実態を探るため観光客に対する発信情報をもとに、水辺活用特徴の把握を試みた。全国には、まだ活用の可能性のある埋もれた水辺資源は多く、これらへの活用展開の知見とするため今回類型化された代表例について現地調査をおこない空間と活動の関係について、さらに把握していきたい。

8.参考文献

[1]水の郷百選 (平成 8 年) 国土交通省土地・水資源局水資源部 (旧国土庁水資源部) 選定
 [2]昭和の名水百選 (昭和 60) 環境省選定
 [3]平成の名水百選 (平成 20 年) 環境省選定
 [4]疏水百選 (平成 18 年) 選定主体農林水産省 事務局は全国水土里ネット